

れて止めたる場合の總稱なれど、多くは聯と聯との集
まらんとする焦點を止めたるを云へり左記三圖の如し

第一圖



第二圖



第三圖



○先手、後手 先手とは黒を持ちて先づ盤面に一
珠を置く方を意味す、後手とは白の謂なり
○攻勢、守勢(せめ、ふせぎ) 先手は攻勢なり、
後手は守勢なり、然れども途中にて後手が先を奪ふと
か先手が後に廻るとか云ふ事あり、是れは先手が攻勢

を失して守勢に變じたるか又は後手が守勢より攻勢に
入り追手追手を以て進む場合を謂ふ

○混戦 先手、後手とも攻勢を取り難く、取りても
勝に達すると明白に見込無き場合を謂ふ

○混戦形 先手優勢なるも別に何れに勝あるや判然
せざるを云ふ(略して混戦とも云ふ)

○満局 満局とは、混戦の極點なり、最早や孰れの
所に打つも白黒ともに勝つ可き見込の立たざる迄に局
面の餘地狭まりたるを云ふ、双方相議して満局と決定
するなり、眞實を云へば満局は勝負無し故に圍碁で云
へば持碁なり、然れども聯珠は白刃の眞劍勝負なれば、
持碁と云ふ者なし、宛も劍客と劍客と双方全く疲勞し
て敵を打つ餘力なき迄に至りたるに比す可きか、斯る
場合は先手の不手際なると勿論なれば、東京聯珠社の
勝負にては満局を先手の負と計算す、序ながら茲に附
記せん、聯珠は幾度も述べし如く先手の力強きものな
れば、大抵の疑義は先手の不利益なる方へ解釋するが
當然なるべし、法律家が『罪の疑はしきは輕きに從ひ
功の疑はしきは重きに從ひ』と云へるが如く、聯珠に